

## 令和4年度第1回下関市公立大学法人評価委員会 議事録【要録】

日時：令和4年7月15日（金）15：00～17：00

場所：下関市立大学 本館Ⅱ棟5階 大会議室

出席者：下関市公立大学法人評価委員会

前田委員、江里委員、佐藤委員、佐伯委員、藤上委員、事務局  
公立大学法人下関市立大学  
山村理事長、韓学長、杉浦副学長、吉鹿事務局長、法人事務局

### 1. 開会のことば

事務局  
○委員5名全員が出席。  
○委員の過半数が出席しているため、下関市立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定により、会議が成立している。

### 2. 議事

委員長  
○本年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員には事前に質問事項を提出いただき、法人にも事前に回答を作成していただいた。  
○本委員会は原則公開であるため下関市のホームページに本日開催の旨を掲載し、傍聴ができるようにしている（当日の傍聴人は0人。）。

#### (1) 2021年度法人業務実績に係る評価について

事務局  
○審議の進め方について  
(1) 法人からの全体説明  
(2) 「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「産官学連携の推進に関する目標」、「管理運営に関する目標」の大項目ごとにヒアリングを実施  
(3) 評価の確定、特記事項や指摘事項の確認

委員長  
○法人より実績報告書全体の概要について説明をお願いする。

法人  
○「2021年度業務実績報告書」について  
<実施状況に関する自己評価>

評価	教 育	研 究	産官学連携	管理運営	計
Ⅳ	3	0	1	1	5
Ⅲ	48	8	19	30	105

Ⅱ	1	1	1	3	6
Ⅰ	0	0	1	0	1
計	5 2	9	2 2	3 4	1 1 7

Ⅳ：年度計画を上回って実施している（5項目）

Ⅲ：年度計画を概ね順調おおむに実施できている（105項目）

Ⅱ：年度計画を十分に実施できていない（6項目）

Ⅰ：年度計画を実施していない（1項目）

○評価「Ⅳ」の計5項目について

項目番号5-1（グローバル化への関心の涵養かん）

項目番号12-2（リカレント教育への取組）

項目番号19-1（大学院入試制度の見直しと広報の強化）

項目番号41-2（初等・中等教育機関との連携）

項目番号59-1（評価の充実）

○評価「Ⅱ」と「Ⅰ」の計7項目について

一般選抜入試の志願者数が目標を下回ったこと、学外組織との共同研究等が中止になったこと、対面での学内研修会等を中止したことによるもの。

評価「Ⅱ」

項目番号15-2（質の高い学生の安定的確保）

項目番号27-1（特色ある地域研究の推進）

項目番号33-1（受託研究・共同研究の推進）

項目番号47-1（法令遵守の徹底）

項目番号53-1（職員の資質向上）

項目番号53-2（職員の資質向上）

評価「Ⅰ」

項目番号34-1（市行政課題への取組）

○2021年度実施の117項目のうち、評価「Ⅳ」と「Ⅲ」を合わせて110項目、全体の94.0%について年度計画を概ね実施していることから、2021年度計画の全体的な達成状況は「概ね良好である」と自己評価するもの。

○「下関市公立大学評価委員会による2020年度公立大学法人下関市立大学の業務実績に関する評価結果の業務改善等へ

の反映状況」について、計4項目の指摘に対し、2021年度内で全て適切に対応している。

(反映状況)

項目番号5-1 (グローバル化への関心の涵養)

⇒語学プログラムの実施やオンラインを活用したイベントを開催するなど、学生の留学へのモチベーション向上に努めた。

項目番号25-1 (ハラスメントによる人権侵害の防止)

⇒コロナ禍においても適宜適切な方法でハラスメント防止啓発講習会を開催するとともに、学生に対してハラスメント防止に関する支援体制の周知を行った。

項目番号64-2 (安全管理体制の充実)

⇒対面の防災訓練等を中止していたが、コロナ禍における代替措置として、動画視聴形式での防火防災訓練、啓発のための研修会を実施し、安全体制の充実を図った。

項目番号65-1 (事業継続計画の策定)

⇒危機管理委員会が中心となり、事業継続計画(BCP)を2022年3月に策定した。

**大項目Ⅱ 「教育に関する目標」**

委員 =ヒアリング=  
~追加の質問等なし~

事務局 ○法人の自己評価が「Ⅰ」と「Ⅱ」の項目について、新型コロナウイルス感染症の影響という大学の努力だけではどうしようもない項目について、「評価をしない」という可能性も含めて検討が必要ではないか。  
○検討の方法については、目的が達成できておらず、その目的を達成するための手段の代替措置をとることが可能か不可能により判断し、不可能なものは「評価項目から除外」する。

委員 ~意見なし~

委員 ○法人の自己評価の妥当性について  
妥当とする。  
○特筆すべき事項について

	<p>追加及び修正事項なし。</p> <p>○指摘事項について</p> <p>項目番号 15-2 (質の高い学生の安定的確保)</p>
<b>大項目Ⅲ</b>	<b>「研究に関する目標」</b>
委員	<p>=ヒアリング=</p> <p>○法人の自己評価の妥当性について</p> <p>項目番号 27-1 (特色ある地域研究の推進) は、新型コロナウイルス感染症の影響により研究を中止せざるを得なかったため「評価項目から除外」としてはどうか。</p>
委員	<p>～賛成～</p>
委員	<p>○法人の自己評価の妥当性について</p> <p>項目番号 27-1 の評価を「Ⅱ」から「評価項目から除外」に変更する。</p> <p>○特筆すべき事項について</p> <p>追加及び修正事項なし</p> <p>○指摘事項について</p> <p>指摘対象の項目なし。</p>
<b>大項目Ⅳ</b>	<b>「産官学連携の推進に関する目標」</b>
委員	<p>=ヒアリング=</p> <p>○法人の自己評価の妥当性について</p> <p>項目番号 33-1 (受託研究・共同研究の推進) は、新型コロナウイルス感染症の影響により学外組織も業務が多忙となり、大学側だけでは研究を行うことはできないため「評価項目から除外」としてはどうか。</p>
委員	<p>～意見なし～</p>
委員	<p>○法人の自己評価の妥当性について</p> <p>項目番号 33-1 の評価を「Ⅱ」から「評価項目から除外」に変更する。</p> <p>○特筆すべき事項について</p> <p>追加及び修正事項なし</p> <p>○指摘事項について</p> <p>項目番号 34-1 (市行政課題への取組)</p>

大項目Ⅴ 「管理運営に関する目標」	
委員	<p>=ヒアリング=</p> <p>○法人の自己評価の妥当性について</p> <p>項目番号53-2（職員の資質向上）は、新型コロナウイルス感染症の影響により対面のSD研修を中止し、代替措置としてオンデマンドでの実施を準備したが、実施には至らなかったため、評価を「Ⅱ」から「Ⅰ」に変更してはどうか。</p>
委員	<p>～賛成～</p>
委員	<p>○法人の自己評価の妥当性について</p> <p>項目番号53-2の評価を「Ⅱ」から「Ⅰ」に変更する。</p> <p>○特筆すべき事項について</p> <p>追加及び修正事項なし</p> <p>○指摘事項について</p> <p>項目番号47-1（法令遵守の徹底）</p> <p>項目番号53-1（職員の資質向上）</p> <p>項目番号53-2（職員の資質向上）</p>
委員	<p>=ヒアリング=</p> <p>○大学院の入試を口述試験のみで行い入学者が増えてきて、受験生や入学者の質はどうか。</p>
法人	<p>○本学は、大学院に青島大学（中国）から日本語を専攻した学生を受け入れているが、努力の積み重ねもあり、学力で不足を感じることはない。また、近年は学力の高い学生達が大学院ではなく就職を好む状況であり、院生を確保するには社会人が中心となるが、本学においては、社会人達（院生）の勉強に対する熱意を感じるとともに、年2回の論文発表や学会発表に真面目に取り組んでおり、教員も日頃から個別相談や個別指導を熱心に行っている。そのため、受験生や入学者の質に対する危惧はない。</p>
委員	<p>○入学者には留学生もいるのか。</p>
法人	<p>○留学生は、青島大学から毎年2人程度はいる。日本語専攻の学生を受け入れ、修士論文を書いて卒業というところまで、教員がしっかり指導している。</p>

	日本の大学院は授業が少なく研究指導が中心だが、本学では授業にも力を入れ、研究指導も学生の要望に応じて対応しているため、教育は充実していると思う。
委員	<p>=ヒアリング=</p> <p>○項目番号56-1（外部資金の獲得）について、どの教員が、どこから、どれくらい研究費をもらって、どのような研究を行っているのか、具体的に分かる資料を提示してほしい。</p>
法人	<p>○確認し、次回に資料を提出する。</p> <p>なお、本学は理論経済学や法学の教員が中心だったこともあり、多額の研究費を要せずに、研究を行うことができていたため、大規模な研究費の獲得はしていないと思う。</p> <p>今後、新学部のデータサイエンス学部（仮称）や看護学部（仮称）が設置されると、外部資金を獲得して研究をする教員が増えてくると思う。</p>
委員	<p>=市と法人への要望=</p> <p>○データサイエンス学部（仮称）を設置し地元からの進学率を向上させるに当たっては、小学校や中学校からプログラミング等の基礎的なIT教育を行い、下関の教育の質を上げる必要がある。</p> <p>○県内に周南公立大学ができて同じような学部もでき、下関市立大学のライバルとなる。差別化が必要となるが、本学には国際商学科があり、語学に関する勉強の機会も多いと思うので、卒業時の語学力が企業から優秀と認められるレベルになるという保証を与えられる教育をしてほしい。</p>
<b>(2) その他</b>	
事務局	○次回の開催等について連絡
<b>3</b>	<b>閉会のことば</b>